

Weekly Bulletin 2018-2019



RI会長
ラリー・ラシン



BE THE INSPIRATION



会長
杉田至弘

静岡東ロータリークラブ

会長／杉田至弘 幹事／川口尚宜

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30～13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>

第 2893 回例会

平成 31 年 3 月 7 日 天候 曇

《司 会》 川口 尚宜 君

《合 唱》 「君が代」
「奉仕の理想」

《BGM》 ムソルグスキー
組曲「展覧会の絵」

《ゲスト》 なし

《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

お誕生日
該当なし

結婚記念日

3月9日 戸塚 敦雄 君

《ソングリーダー》

長田 きみの 君



本日担当の先輩に都合が悪いからやってくれと言われ、交代ですねと言ったら、交代などない2週連続やるようにとその先輩から圧をかけられて今週もソングリーダーを担当させていただきます。

《会長挨拶要旨》

「日野原重明記念富士山静岡倶楽部」

杉田 至弘 会長



今日は「日野原重明記念富士山静岡倶楽部」についてお話しさせていただきます。

一昨年 105 歳で旅立たれた日野原重明先生は聖路加国際病院の現役の医師を務める傍ら長寿社会が進む日本の医療につい

て数々の貢献をされました。日本で初めて「人間ドック」を取り入れたのは日野原先生です。そしてそれまで成人病と言われていた病名の数々を「生活習慣病」と言い、日常の生活習慣がその病を作ると警鐘を鳴らしました。終末緩和医療についての対策もいち早く取り入れています。

その日野原先生が 90 歳の時「これから日本はますます高齢人口が増える、その人たちが長寿社会を生きる糧を」と「新老人の会」という任意団体を作り、全国に会員を募りました。私は縁あって静岡県中部、東部をエリアとする富士山支部の立ち上げに参加、発起人と会員を募り活動をしてまいりました。60 歳～74 歳がジュニア会員、75 歳以上がシニア会員、20 歳～59 歳はサポート会員、100 歳以上は会費無料です。「人はひとりでは生きられない」と三つのスローガンとひとつの使命を掲げています。スローガンは「愛すること」「創めること」「耐えること」です。歳を重ねれば重ねるほどこのスローガンの意味が分かってくるから不思議ですね。そしてひとつの使命とは「子どもたちへのちと平和の大切さを伝えること」です。日野原先生が亡くなったあと各地で議論がありました。そして富士山支部は、今こそ先生の遺志をついで次代に繋げていこうと活動を続けています。先日は 1945 年の静岡大空襲で焼け焦げながら 3 年後に芽吹き、立派な巨木に復活した「奇跡のクスノキ」を紹介する冊子を静岡市の小学生に寄贈致しました。

時間の関係でひとつずつ活動の模様を伝えられませんで最後にひとつだけ、企画を紹介させていただきます。来る 5 月 18 日土曜日午後 2 時から、常葉大学草薙キャンパスにおいて「日野原真紀さんの講演と交流会」を実施致します。

日野原真紀さんをご次男のお嫁さんですが、晩年の先生を支え実の親子以上の信頼関係があり、先生も大事にされていた方です。日野原イズムとはなんなのか先生からの発信が途絶えた今残されたメッセージを理解する良い機会だと思います。会員でなくても聴講可能です。参加費 2000 円でケーキと飲み物付きです。是非ご参加下さい。定員 100 名で先着順です。

《会員卓話》

「静岡デスティネーションキャンペーンについて」

大山 隆幸 君



来月から始まる静岡デスティネーションキャンペーン(以下DC)についてお話しします。まずJR東海について説明します。当社は昭和62年に国鉄分割民営化により発足し東海道新幹線の輸送、そして、東海地域の在来線

輸送を担うことを使命に誕生しました。この日本の経済、文化の中心で日本のGDPの6割を占める重要な地域を担っています。当社の事業の一つ目の柱は、新幹線事業で、日本の3大都市圏を結ぶ大動脈であり開業以来約60億人のお客様を運んでいます。二つ目の柱は在来線事業で、静岡、名古屋地区を中心に12線区を営業し、地元の皆さまの日常生活の足として東海道新幹線と一体となったネットワークを構成し、地域に愛される輸送サービスを提供しています。三つ目の柱は関連事業で、静岡地区では、パルシェ、アスティ、アソシアホテルなどがご利用いただいています。これに加えて4つ目の柱としてリニア中央新幹線建設に取り組んでいます。リニアが開業すれば、のぞみ利用者がリニアにシフトし、東海道新幹線の静岡駅停車増発が可能となりますので、静岡の皆さまにもリニア中央新幹線の建設を応援していただきたい。鉄道事業で最も大事なことは安全安定輸送の確保です。昨年度の事故件数は、昭和62年度の17%まで減少しました。また1列車あたりの平均遅延は1分未満でした。この他にも、駅や車両設備の改良、接客サービスの向上など、輸送サービスの更なる向上に努めております。当社の静岡に関する役割としては、JRのネットワークを活用して日本全国からお客様を静岡に運び、また県内のスムーズな流動を実現することです。静岡DCでは、他の交通事業者と協力して県内に点在する観光素材を回遊するための交通手段の役割を果たしていきます。DCの主体は地元自治体と観光協会であり観光素材の発掘とおもてなしをしていただきます。JRは全国で宣伝し、全国から送り込みを行います。静岡では19年ぶり3回目の開催となります。本番のほかに前年にはプレキャンペーン、翌年にはアフターキャンペーンを実施し、長い期間をかけて静岡の魅力を発信します。日本の定住人口が減少することが予想される中観光強化により交流人口を増やすことが必要です。静岡の観光は、3大都市圏に近く交通が便利である反面日帰りが可能であり宿泊が増えない面があります。また、観光素材がありすぎて、伝わりにくい面もあります。そのために、戦略的な観光施策が必要であり、しかも観光施策は一過性で終わらせないことが重要です。この静岡DCをスタートとし、観光施策を継続させるようにしていきたい。当社が行っている「そうだ京都いこう」は25年、「うましうわし奈良」は13年継続しています。静岡DCのロゴマークは、宝永山を力こぶに見立てて、地域の元気を表現し、あっぱれの丸は

太陽を表現しています。静岡には多くの観光素材がありますが、富士山、パワースポット、歴史文化、風景アクティビティ、食の6つのテーマに分けてアピールします。JRの予算規模としては、JRグループ全体で8億円、これとは別にJR東海が3億円をかけて宣伝します。県でも7月以降の取り組みに向けて予算を組み込んでいただいています。地元の方もこの機会に改めて少し遠出をしていただければと思います。DCは地域が主役です。DCを成功させるには、観光素材開発として普段できない特別感が必要です。愛知DCでは、普段入れない酒蔵での日本酒作り体験を実施しました。特別感の実現には地域の協力が必要でありアフターキャンペーンに向けて協力をお願いする。また、おもてなし気運の醸成も必要です。仙台DCでは駅だけでなく商店街でのフラッグや一般企業での横断幕の掲出を行い街中でアピールを行いました。静岡でもそのような気運情勢をしたいと考えています。またJR九州の観光列車「ななつ星」で始まった列車の通過時に沿線の地域の皆さんが手を振るお手振りがありますが、静岡DCでも観光列車を走らせますので、このお手振りの協力をお願いしたいと考えています。おもてなしの効果として、印象が向上し、再来訪の機運が高まり、それに応じて新たな魅力を発信し、再来訪していただき、また温かいおもてなしするというサイクルを回すことで静岡の観光を永続的に盛り上げることができます。最後になりましたが、DCは目的ではなくスタートです。観光で重要なのは継続的に誘客する仕組み作りです。静岡では秋にはラグビーワールドカップ、その後には東京オリンピックと様々なイベントがありますので、それに合わせながら地域の皆さんと協力しながら観光を継続的に盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

《スマイル報告》

- 大山 隆幸 君 本日は卓話をありがとうございました。静岡DCが盛り上がることを祈念しスマイルします。
- 小日向 真 君 静岡DC応援缶発売を皆さんに飲んでいただきたいという想いを込めてスマイルします。
- 佐野 哲一 君 目ポロリ、鼻クシャ、喉イガラ、周囲が辛そうな中、一人、プレゼントでルンルン。が、小生もマスク、鼻ズル、目カユで箱をやっと開けました。イヤな時期の誕生日、気配りすみませんのスマイル。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
3/7	50(49)	36	13	-	-	-
2/28	50(49)	36	13	-	-	-
2/21	50(49)	39	10	5	5	89.79%
2/14	50(49)	45	4	1	3	93.87%
2/7	50(49)	44	5	2	3	93.87%

(会報作成 宇田川 享)